

# 長浜市北中部の地域公共交通適正化に関する指針 ～概要版～

## 【指針策定の背景】

- ・市民生活や地域経済を支えてきた地域公共交通は、利用者減少により行政支援を受けて運行を維持しているため、行政負担を行う意義を踏まえた運行の適正化が必要である。
- ・特に市北中部においては、過疎化や高齢化などの地域課題解決に向けて、広域的な視点による交通ネットワークの再編を図るため、運行事業者、市民、民間企業・団体、行政など地域全体で公共交通の意義を共有することが重要であり、長浜市の地域公共交通のあり方について、めざすべき目標と手法を明らかにする必要がある。

## 【指針の位置づけ】

長浜市基本構想の理念を踏まえ、合併協定に基づく地域事情を考慮し広域的な視点で路線見直しを推進するため、虎姫、湖北、高月、木之本、余呉、西浅井の各地域内の地域公共交通の適正化にあたって、基本的な考え方、取り組み方を示す。

### 長浜市基本構想

安全で快適な暮らしや多様な交流、地域経済の発展を支える公共交通体系の構築や地域間交通ネットワークの形成を図ります。

### 合併協定内容

合併後速やかに、地域事情を考慮しながら、広域的な視点で路線の見直しを図る。

## 【市内公共交通の現状と課題】

### ①活力ある市民生活と公共交通

- ・バス利用者の多くは高齢者や未成年者など、自らの交通手段を持たない市民である。
- ・利用目的の大半は通院(学)、買物など日常生活に密着したもので市民の重要な移動手段である。  
⇒需要に即したダイヤ編成、料金体系などの改善により利便性の向上が必要。  
利用機会の少なかった市民や観光、ビジネス利用など新たな利用層獲得が必要。

### ②地域事情に即した運行

- ・平野部では経路選択の自由度が高いものの直线性に乏しく、中山間地では経路選択の自由度が低くダイヤ編成にも制約がある。
- ・路線定期運行のほか、デマンド運行、デマンド併用型を採用し、一部路線ではフリー乗降制を採用するなど、路線によって運行形態に差異がある。  
⇒広域ネットワーク化に向け、経路や他路線との接続環境の再検証が必要。  
地域事情を考慮した安心・安全で公平・等質なサービスの提供が必要。

### ③バランスのとれた運営の必要性

- ・廃止前の民間路線の存続を基本に、赤字欠損額を行政が補助することで運行を維持している。
- ・多様な公共交通を客観的に比較検証する指標を持っていない。  
⇒実態把握のため、路線の基本情報、定量的、定性的データを示す路線カルテの作成が必要。  
適切な行政負担に向け、運賃収入を圧迫する割引制度見直しや運賃上限の検討が必要。

### ④市民参画による協働作業の必要性

- ・住民アンケートによる、現在の外出時の交通手段は、マイカーが70%、路線バスは6%であったが、回答者の家族を含め、過半数が将来的にはバスを利用したいと回答した。  
⇒サービス改善による利用率向上と公共交通に対する市民意識を高める取り組みが必要。  
自治会や地域づくり協議会などで自らの地域の公共交通を検討する環境づくりが必要。

## 【地域公共交通の適正化に向けた目標と指針】

めざすべき将来像に向けた目標

### 「市民生活の安心と地域活力を支える地域公共交通」

#### 地域の魅力を高める公共交通

- 利便性と認知度を高め、誰もが安心・安全に移動できる公共交通をめざします。
- ・広域的視点による路線機能を明らかにし、地域特性に即した運行を図ります。
  - ・市民が共有する財産となるよう、乗りやすさや判りやすさの向上に努めます。
  - ・定住化促進や企業立地環境を視野に公共交通体系の充実を図ります。

#### 交通環境の変化に柔軟に対応する公共交通

- 機能性と公益性を高め、実証と検証による適正な公共交通の提供をめざします。
- ・路線ごとのカルテを作成し、総合的な観点でのサービス適正化を図ります。
  - ・交通需要の変化に即応し、生活交通を基本とした乗合率の向上を図ります。
  - ・公共交通事業者の自主自立的な経営を支援し、サービスの向上を図ります。

#### 地域参画で支える公共交通

- 地域協働による、まちづくりと連携した公共交通の充実をめざします。
- ・地域参画による新規利用創出と利用集積を図ります。
  - ・マイカーと公共交通を使い分ける知恵の共有と実践を推進します。
  - ・積極的な情報提供で、公共交通に対する市民参画意識を高めます。

## 【施策展開・体制のイメージ】

平成25年度までに事業計画を策定し、広域的視点に基づく、路線再編を段階的に実施。

